

Voice of friends NEWSLETTER

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー ニュースレター
ボイス オブ フレンズ vol.30

contents

- 認定NPO法人取得のお知らせ
- セタイベント カンボジア・フェア報告
- 赤尾和美看護師「今月の出来事」から活動報告
- 新連載「知ってる? カンボジア!」
- 事務局より

フレンズJAPANが 認定NPO法人に認定されました！

このたび、NPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPANは、国税庁長官より【認定NPO法人】として認定を受けました。認定NPO法人になることは団体としてのひとつの目標であり、長年の念願でもありましたから、喜びもひとしおです。

団体設立以来 15 年間の活動が認められ、この結果を得たことは、ひとえにご支援者・関係者の皆さまのご協力のおかげだと思っております。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

【NPO法人】と【認定NPO法人】、どこが違うのか？という疑問をお持ちの方も数多くいらっしゃることでしょうから、簡単に解説します。NPO法人の認証は、各都道府県と内閣府（事務所が2つ以上の都道府県にある場合のみ）が担当しており、現在、約4万団体が登録されています。一方、認定NPO法人は国税庁が認定を行い、登録数は232団体（※国税庁ホームページより、2011年8月16日現在）です。

認定をもらうためには、活動内容や活動実績、透明性のある会計など、多方面に渡る厳格な審査を通過しなければなりません。認定を受けた団体が全NPO法人の1割にも満たない現状からも、その厳しさがうかがえます。つまり、認定NPO法人であることは、信頼度が高まることにもつながるわけです。

また、国税庁からの認定による最大の変化は、「団体から、税の寄付金控除ができる領収証を発行できる」ということ。これまでは、皆さまからの寄付に対し、確かに受け取ったことをお知らせする「受領書」しか発行できませんでした。そのせいもあって、確定申告の時期になると「この受領書で税控除を申告できるか？」「申告できる領収証はないのか？」といったお問い合わせを少なからずいただいておりますが、今後は「当法人の領収証で申告なさってください」とご案内することができます。

このたびの認定は、フレンズJAPANにとっての新たなスタートです。皆さまから、よりいっそう信頼される団体になるよう努めてまいりますので、今後とも末長くご支援いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2011年8月末までの患者統計

・ 外来患者総数	(1999年～)	965,363件
・ 入院患者件数	(1999年～)	32,163件
・ 重症入院患者件数	(2001年～)	5,983件
・ 軽症入院患者件数	(2001年～)	10,184件
・ 救急外来件数	(2000年～)	113,831件
・ 手術件数	(1999年～)	13,930件
・ 訪問看護件数	(2001年～)	21,014件
・ 歯科治療件数	(2000年～)	144,441件
・ 眼科治療件数	(2002年～)	27,974件
・ 臨床検査件数	(2001年～)	472,689件

※救急外来件数は2010年10月からトリアージの数を含みます。

アンコール小児病院 (AHC) スタッフ数

カンボジア人スタッフ

・ 医師	36人
・ 看護師	112人
・ 麻酔科	3人
・ メディカルアシスタント	1人
・ 薬局	7人
・ 臨床検査	11人
・ ソーシャルワーカー	3人

・ プレイスペシャリスト	2人
・ PLWHA カウンセラー	7人
・ 総務	99人
・ 広報・フレンズセンター	6人
・ CBHEP スタッフ	16人
・ サテライトクリニック	41人
(医師5人、看護師27人、総務9人)	
計	344人

外国人スタッフ

・ 医師	1人
・ 看護師	2人
・ 総務	5人
・ 英語教師	1人
計	9人

合計 353人

七夕イベント★カンボジア・フェア 『星への願いをアンコールの子どもたちへ』

「カンボジアの子どもたちを想って願いをかける七夕まつりをしよう」という企画を立て、1年以上の時間をかけて多くの方に短冊を書いていただきました。各地のイベントやネット、学校や職場で呼びかけてもらい、集まった短冊は約 1500 枚!そしてついに7月2日、国際機関日本アセアンセンター・アセアンホールで七夕イベントを開催しました。

今回は、七夕の企画と合わせ、私たちがかねてより模索していたイベントの形にもチャレンジしています。それは、カンボジア支援の団体や在日カンボジア人の方々と一緒にイベントができるかということでした。

各方面に声かけをした結果、カンボジア大使館の後援、国際機関日本アセアンセンターの共催をいただき、私たちを含め、カンボジア関連の 12 団体が集結しました。

カンボジア舞踊家・山中ひとみさん、JHCのカンボジア人スタッフの皆さん、井伊誠さんと在日カンボジア留学生協会の皆さんのご参加もあって、私たちが願っていた形でイベントを実現できたと自負しています。

当日は、用意した 140 部の資料がなくなるほどの来場者があり、「クメール語講座」受付には長蛇の列、「会場が狭過ぎる」という苦情まで寄せられる盛況ぶりでした。

イベントの締めくくりは、カンボジア流に、みんなが輪になって踊るダンス。大盛況のうちに幕を閉じ、スタッフ一同、次回開催へ向けて意欲満々です。

なお、イベント終了後、短冊はカンボジアのアンコール小児病院に運ばれ、フレンズ・センターに飾られました。“展示”ではなく“飾られた”と表現したくなるような現地スタッフの計らいを、



写真から汲み取ってください!

フレンズ・センターに届いた短冊



左：お客さんでいっぱい会場
下：山中ひとみさんとお弟子さんによるカンボジア舞踊

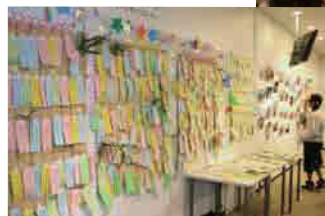


左：大好評だったワークショップ
下：最後にダンスで盛り上がりました



左：たくさんの短冊が集まりました

撮影：太田耕二



＜イベント参加団体＞ NPO法人アイセック中央大学委員会 / NPO法人カンボジアの教育を支える会 (PACE) / 認定NPO法人国際子ども権利センター (シーライツ) / 公益財団法人 CIESF (シーセフ) / 認定NPO法人シェア=国際保健協力市民の会 / 公益社団法人シャント国際ボランティア会 / NPO法人地雷原を綿畑に! NatureSavesCambodia! / スナードイ・クマエ孤児院 / +ONE (プラスワン) / ぼけっと / レアスマイル (50音順)

赤尾看護師のアンコール小児病院 (AHC) 活動報告会 in 福岡



AHC 建設前からご支援いただいている“社会医療法人財団 池友会”関連の福岡看護専門学校で赤尾和美看護師の活動報告会が行われ、多くの学生さんや職員の方々にご参加いただきました。「日本の看護とはかけ離れた現状に驚き、医療人を志す者として心を動かされた」との感想も寄せられ、実りある報告会となったようです。

今後も、こうした講演活動を積極的に行いたいと考えています。職場や学校、グループなどで赤尾看護師の講演会や報告会を開催してみたいとお考えの方は、お気軽にフレンズ JAPAN 事務局までお問合せ下さい。

ピエクトラ医療部長が副院長へと昇進しました! アンコール小児病院(AHC)は12年目を迎えて、その病院の成長を実感しています。病院の成長にカンボジア人スタッフの成長が大きく関与していることは言わずと知れたことですが、12年前を思い出すと、今のこの状況が夢のようです。

12年前には新人ドクターとしてAHCに雇用されたピエクトラ医師ですが、彼の勉強熱心な姿勢がそのままその経緯を語っています。一途に学ぶ姿をよく見かけました。そして、スタッフが増えるにつれ、まずはチームリーダーとしての頭角を現し、2002年にはICU病棟の部長となり、シニアの医師としての責任を充分感じるようになったようです。

そして、2004年には医師部門全体の医療部長となり、毎日の治療はもちろんのこと、後進の成長へも貢献し、指導者として多くの時間も費やすようになりました。

そんなカンボジア人スタッフの成長の中でも、今回のピエクトラ医師の昇進は、大きな大きな前進です。

カンボジア人たちがカンボジア人のためのカンボジア病院を運営することは、みんなの願いです。近い将来、そうなってくれそうな予感が大いになりました。子どもが旅立つ時のような気持ちですね。(5月)



ピエクトラ新副院長



赤尾和美看護師の アンコール小児病院レポート

1歳の女の子、スレイナットちゃんがお母さんに連れられ、ラタナキリ州から来院しました。ラタナキリ州はシェムリアップから600キロはある遠く離れた農村地域ですから、その道のりは遠く、またその交通費は家族にとってはとても大きな負担になります。

スレイナットちゃんのお父さんは環境省で働いていますが、お給料は1日5ドル、お母さんは仕事がありません。スレイナットちゃんのおじいちゃんが家の回りに作物を栽培しているので、家庭で食べる分の野菜はなんとか賄えているそうです。

スレイナットちゃんは、子どもが受けることになっている予防注射を受けた後、その注射をした腿に膿がたくさん溜まってしまいました。お母さんはとても心配し、病院へ連れて行こうにもラタナキリにはありません。そんな時、スレイナットちゃんのおばさんから、「シェムリアップのアンコール小児病院へ連れて行きなさい。とても良く診てくれるから」と言われ、お母さんは決心しました。道中、痛みを耐えながらの長い旅だったことと思います。

AHCへ到着後直ぐに外科医によりスレイナットちゃんの腿は切開され、膿はきれいに洗われましたが、たくさん溜まっていたので、翌日も再度傷の中を洗わないとなりません。600キロを戻ってまた来ることは不可能です。AHCでは、そんな患者さんには夜にはマットと蚊帳を貸し出し、食費のない患者さんへは食材を提供して、外来の待合所を宿泊施設として開放しています。毎日数十名の患者さんと家族がそこで夜を過ごします。

スレイナットちゃんも一晩をAHCで過ごし、翌日きれいに処置をして帰ることができました。お母さんは、娘の回復の嬉しさを胸に、600キロの道のりを帰って行きました。よかったです。また一つ笑顔が増えました。(5月)



慢性の病気を持った子たちは長期に渡ってAHCへ通っています。AHCには、子ども同士の健康教育(ピア・エデュケーション)のプログラムがあります。

現在、対象となる13名の“教育者”がいますが、病気のこと、将来のこと、恋愛のことなどなど色々悩む年代となってきている彼らのために、みんなでオープンに話すチャンスを作りましょうと、郊外へピクニックを企画しました。

まずは、ちょっとしたゲームで体も心もリラックス。そして、リラックスしたところで、ざっくばらんに「さて、病気のこと、友達のこと、学校のこと、家族のこと、何か話したいなってことはないかな?」と始めました。恥ずかしがってあまり話さないかな・・・と思っていたのですが、驚くほどに出てきましたよ。また、カンボジア人スタッフの進行もとても良かったです。

この企画に参加した子の中には10年以上もAHCへ通っている子もいます。スタッフともすっかり信頼関係が築かれているので、うまいいったのでしょう。

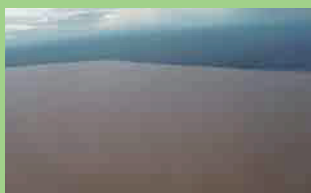
参加者の中には、今年中に結婚する子、そして、看護師になりたいと地方の看護学校へ通うために引っ越しをする子がいます。AHCからの卒業生です。スタッフの成長を見て“びっくり嬉し”かったり、子どもたちが旅立って行くことにちょっと寂しかったり・・・なんだかとても感慨深いです。自分の子どものことのように感じます。(4月)



まずは、アイスブレイキングで気楽な気分!



誰かに言いたかったことがいっぱいだったようです



7月のシェムリアップ上空からの写真です。

こんなに水だらけなんです。乾季にも同じあたりから撮ってご披露したいです。その違いたるや、びっくりしますよ。私は、この水だらけが大好きです。



訪問看護で6年もサポートしている家族がいます。セツちゃん、12歳の女の子です。体はせいぜい7歳程度にしか見えないほど小さいです。

6歳の時に脳の炎症を起こし、体にまひが残ってしまったために自分で体を動かすこともできず、食べ物は援助なしでは掴むことすらできません。

お父さんは毎日お酒に溺れ、お仕事は時々気が向いた時に行く程度でしたから、セツちゃんを含めて4人の子ども達を食べさせるためにお母さんが仕事に出なければなりませんでした。

お母さんはセツちゃんに介助が必要なことは充分理解しているのですが、結局は寝かしたままで、セツちゃんの妹(やっと今年7歳)に託して出かけるしかなかったのです。

訪問看護では、食料支援やお父さんとの話し合いなど色々な方向からアプローチしてきましたが、どれもこれもあまり長続きせず、結局、寝たきりのセツちゃんは、寝たきりのまま。しかし、諦めることはできません。訪問看護スタッフから庭に自分のところで食べられるだけでも野菜を作ろう・・・熱心な説得にセツちゃんのご両親も何か感じるどころが出てきたのでしょうか。

インゲンや、ナス、空芯菜、かぼちゃの栽培を始めることができ、お父さんも完全にお酒を断ち切ることはできていないようですが、畑仕事を手伝いながら、外への仕事へも毎日出るようになりました。

家庭で野菜の栽培をするようになりましたから、お母さんは常にセツちゃんと一緒に時間を過ごすことも可能となり、食事介助も余裕を持ってできるようになりました。その結果、体重が少しずつ増えて来ています。ずっと、10キロしかなかったセツちゃんですが、先日は12キロになっていました! 嬉しいですね。

このまま、ご両親が少しずつ安定した生活を持つことにより気持ちにもゆとりができ、笑顔が増えてくれるといいですね。家庭の中の笑顔は、子どもたちの情操教育にとっても大切ですものね。(7月)



巡回写真展『アンコールの空の下』

多くの方にカンボジアという国やアンコール小児病院とフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーの活動を知ってほしいとの思いから、広報活動の一環としてアマチュア写真展を行っています。無料でご提供いただける会場を探しておりますので、お心当たりの方は、事務局までお知らせください。

●5月3日～15日 JICA 地球ひろば

当初3月に予定されていましたが、震災を受けて延期したものです。

●7月2日～15日 国際機関 日本アセアンセンター

スナードイ・クマエ孤児院の絵画展も同時開催されました。

●7月22日～9月1日 財団法人 操風会 岡山旭東病院

アンコール小児病院を長くご支援いただいている方からのご紹介で開催することができました。病院内にある“情報コーナー健康の駅”というスペースと、パッチ・アダムスホール前の廊下をご提供いただき、病院スタッフの方々が告知チラシを作ってくれたり、展示を引き受けたりしてくださいました。

●8月3日～8日 そごう柏店

カンボジアで教育支援を行っている団体・カンボジアに学校を贈る会が、『市民(わたしたち)の目で見たカンボジア…くらし、子ども、風景』というアマチュア写真展を開催するので、フレンズ JAPAN にもスペースを一部分けてくださいました。奇しくもカンボジアつながり & 同じ内容の写真展！ほんの偶然から知り合えた団体です。こうしたつながりが少しずつでも増えていくと嬉しいです。



東京・広尾
JICA 地球ひろばでの
写真展



上：清里
ウォンさんとランディさんが
素晴らしい空間を作りだしました



左：安曇野
トランペット奏者を迎えての
ギャラリートーク

アンコール小児病院サポート・プロジェクト 2011

9月3日(土)、清里フォトアートミュージアムで毎年恒例のチャリティイベントが開催されました。作家の田口ランディさんによる朗読とピアニストのウォン・ウィンツァンさんのコラボレーション。大雨の中でしたが、多くの方が参加してくださり、ウォンさんの奏でる【音】とランディさんの【朗読】が絶妙で、会場中が二人の世界に引き込まれていました。

このイベントの収益は、東日本大震災の被災地と、アンコール小児病院に寄付されます。清里フォトアートミュージアムの皆さまに心よりお礼申し上げます。

写真展&ギャラリートーク in 安曇野

フレンズ JAPAN に支援者・ボランティアとして長く関わっている写真家・足立君江さんの写真展「カンボジア ちいさな命たち」が8月11日～18日まで安曇野市穂高町研成ホールで開催され、13日には、アンコール小児病院の赤尾看護師とトランペット奏者・松平晃さんを交えたギャラリートークがありました。

自然豊かな安曇野で(会場は礫山公園という美しい公園内にあります)、足立さんの写真に囲まれ、松平さんの素敵なトランペットの音色に彩られながらのトーク。会場にはシェムリアップ出身だというカンボジアの方もおり、カンボジアの話題で盛り上がりしました。

● おくやみ

アンコール小児病院(AHC)開院以前から長きに渡りご支援をいただいている法瀧寺(広島)の副住職、齋藤玄照さんが8月28日にお亡くなりになりました。先月お会いした時には「8月にまた会いましょう!」と言っていたのに…。AHCへのご支援を積極的にご同行の皆さまへ働きかけてくださり、また、私は個人的にも人生のアドバイスをたくさんいただきました。言葉なくとも私の心中を察して、何気に核心をついているお言葉がたくさんありました。

ある日、私は随分と行き詰まった状態でおりました。そんな時玄照さんが「和美さん、お風呂に入っている時にね、温かいお

湯が体の前にあるとするでしょ。それをね、ゆっくりと押し出してあげることで背中へも温かいお湯が回って行くんですよ。自分の持っているものを一人で抱えるのではなく、回りへ押し出すとみんなが潤う。悩みも同じですよ。一人で抱えていては背中はずれ暖まりませんよ」と言われました。カチカチになっていた頭が柔らかくなった気がしました。

温かく見守ってくださるお兄さんのような存在。今でも、そしてこれからも、私の心の中で叱咤激励をして居続けてくださっていると思います。ご冥福をお祈りいたします。

アンコール小児病院 赤尾和美

カンボジアの子どもたちを支援するフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPANに皆さまのご協力をお願いいたします。

●ご支援の方法をお選びいただけます。

一般賛助会員：年会費 1口6,000円

学生賛助会員：年会費 1口3,000円

- ・口数はご自由です。
- ・賛助会員の皆さまには年2回発行のニュースレターをお送りするほか、報告会やイベントの案内をお届けします。

一般寄付

- ・金額・回数をご自由です。
- ・ニュースレターや報告会、イベントの案内などをお送りいたします。

※寄付者の皆さまのお名前を、病院内に設置しているネームプレートにローマ字で記載します。ご寄付の際にはフリガナをお知らせください。

正会員：年会費 1口12,000円

- ・ニュースレターや報告会、イベントの案内などをお送りするほか、年1回の定時総会において、団体の意思決定について参加していただけます。(委任状の提出も可能です)
- ※当法人が定める入会申込書を別途ご提出ください。

ご寄付を希望される方には、専用の郵便口座の振込用紙をお送りしております。

ホームページのフォーム、もしくはお電話でご請求ください。郵便局や銀行に備え付けの用紙を使っていただいてもかまいません。

郵便口座

加入者名：

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
振替番号：00160-0-546217

銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店

口座番号：普通預金 0420041

口座名：トクヒ)フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

●クレジット決済のお知らせ

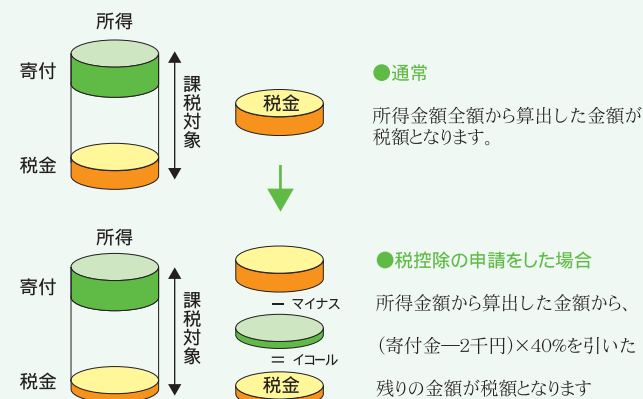
ご寄付がご自宅からインターネットを通じ、クレジットカードでできるようになりました。フレンズJAPANのホームページ www.fwab.jp にアクセスし、「オンライン寄付」から手順に沿ってお手続きください。

寄付金控除とは……

寄付金の領収証を添付することにより、確定申告での税控除を受けられます。個人寄付の場合、2011年6月に新たに制定された①税額控除方式と、②所得控除方式があります。

【個人寄付の場合】

- ① 税額控除方式（新方式。当法人への寄付は、2011年8月寄付分より有効）
(寄付金額-2千円)×40%を 税額 から控除



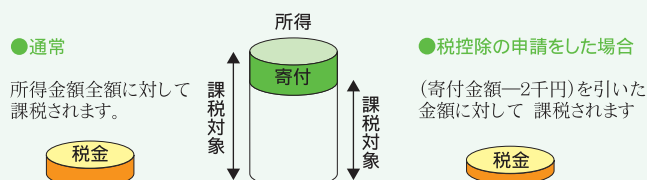
例) 年間6千円寄付した場合

(6千円-2千円)×40% = 1,600円 となり、税金 1,600円 が控除されます。(※)

※対象となる寄付金額は、その年の総所得金額等の40%相当額が限度とされ、税額控除額は、所得税額の25%相当額が限度とされています。
※地方税での寄付金税額控除10%(都道府県民税4%、市区町村民税6%)と合わせて、最大で(寄付金額-2千円)の50%を減税することが可能になります。

② 所得控除方式

(寄付金額-2千円)を 所得から控除



※所得控除の額は、その年の総所得金額等の40%相当額マイナス2,000円が上限とされています。

- 控除の額は収入その他により異なります。上記の図と例はあくまで参考です。
- 法人によるご寄付、相続財産からのご寄付など、詳しくはお近くの税務署または、税理士にご相談ください。

※特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPANは2011年8月1日より認定NPO法人と認定されました。8月以降のご寄付には寄付金控除の可能な領収証を発行いたします。

※銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より郵便振替で直接送金される場合、事務局にはお振込み者のお名前しか通知されませんので、領収証やニュースレターをお送りすることができません。
大変お手数ですが必ず、お名前(フリガナ)、郵便番号、ご住所をお知らせください。

知ってる？カンボジア！♡ のりもの編

首都プノンペンを中心に自家用車をもつカンボジア人が増えています。LEXUSが人気とは言っても、多くの方は他の中古車を購入。近年の原油高騰や地方の人々にとって、車はまだまだ高嶺の花。「原付バイク(モトウバイク)」がカンボジア人の足です。

後部座席には人だけではなく、様々なものをのせて運びます。空港から街中に向かうまでの道すがらだけでも、「カンボジアに来た!」ことが実感できるのではないのでしょうか。

たとえば、生きた豚・鳥、ココヤシ…。人も3人4人乗りは当たり前です。

実は、カンボジアの法律ではバイク乗車時のヘルメット着用と制限定員2人ということが定められています。制定から数年、なかなか守られていなかったこの法律ですが、プノンペン、シェムリアップ、シアヌークビルにおいては昨年頃からしっかりと守られるようになってきました。

それはなぜか？どこの国も一緒ですね、罰金徴収が厳しく行われるようになったからだそうです。カンボジアの景色も国内の発展と共に変わっていくのでしょうか。

レンタルバイクやバイクタクシーを利用される方、まずは安全第一、そして罰金を支払うようなことがないよう、お気をつけください。



© Karl Grobl

市場へ向かうのでしょうか



この光景も数年後には消えるのかも



30号を迎えたのを機にニュースレターをリニューアルしました。支援者の皆さまとアンコール小児病院(AHC)をつなぐ架け橋になるよう、これからも内容の充実をはかっていきます。

AHCの地域医療支援・保健教育プログラム(CBHEP)スタッフから、素敵なカードが届きました。カードには「日本の皆さん、いつもありがとう」というメッセージが。現地からのダイレクトなメッセージは、私たちにパワーを与えてくれます。

シェムリアップで12月に行われるアンコールワット国際ハーフマラソンに、フレンズJAPANからツアー参加者を募集しています。病院スタッフとの懇親会など、この機会だけのプログラムを組んでおります。皆さまのご参加をお待ちしています。

事務局から


FRIENDS
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

認定NPO法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
〒153-0064 目黒区下目黒 1-7-5-203
Tel / Fax : 03-6421-7903
friends@fwab.jp

アンコール・フレンズ基金 福岡事務局
〒811-0213 福岡市東区和白丘 2-2-75
福岡和白病院 総務課内

Friends Without A Border
1123 Broadway, Suite 1210
New York, NY 10010 USA
Tel : 212-691-0909
Fax : 212-337-8052

Angkor Hospital for Children
PO Box 50, Siem Reap, Cambodia
Tel : 063-963-409
Fax : 063-760-452